

谷 拓耶 (2010・法)

D 福島県会津東山温泉コース

東日本大震災から1年半以上の時が経ち、メディアから流れてくる情報に占める震災の割合が減ってきた。今回、東北応援ツアーで福島へ向かう私の心の中には、“今更東北を見ても遅いのではないか”という思いが正直あった。実際に被災地に足を運び、被災者の声を聞いた今では、“まだ始まってすらいない”そう感じている。震災自体は天災であり、ある意味では受け入れる他ない事実である一方、原発事故の問題の本質は人災であり、こちらは受け入れがたい事実である。放射能という危険に怯えながら、風評被害という死活問題とまで闘わないといけない状況は考えるだけで恐ろしい。驚いたのはそのような中、力強く前を向いて行動されている被災地の方の言動であった。そこから勇気ももらった私はこれから何をすべきだろうか。考えた結果行き着いたのは、“伝えること”私にはこれしかない。東北から帰ってから家族、友人、同僚、様々な人に話をした。自分が見聞きしたこと、考えたこと。それは一時的なものではなく、これからも継続していきたい。

最後に、誰しもが自分の身が一番大切だと思う。出来れば少しでも安全なものを食べたいと思うのが人間の心理であろう。しかし本当にそれでいいのだろうか？想定外のことが起こった今や、我々もこれまでの想定を超えた思考と行動にチャレンジする時が来ているのではないか。今回参加した東北応援ツアーで出会った全ての人に感謝すると共に、ここでももらった勇気をこれからの力に変えていきたい。ツアー参加前の自分や復興はかなり目処がついていると考える方たちへ、今からでも何か始めましょう。